

NO. 69(令和5年10月31日発行)



社会福祉法人
愛の鈴
AINO-SUZU

愛の鈴通信



町田おかしの家
園芸場で収穫した藍の生葉を使い
草木染めに使用しました。

目次

- ・ 理事長のことば
- ・ 町田おかしの家 便り
- ・ ケアホーム愛の鈴 便り
- ・ 法人本部報告
- ・ 町田おかしの家 商品ラインナップ
- ・ アクセスマップ
- ・ 職員募集 編集後記

理事長のことば

社会福祉法人愛の鈴
理事長 植草三樹男

「自己中心ではなく、神中心で生きる」

私たちは、すべてのことを自分中心に考えています。

しかし、キリスト教では神中心で生きる事が求められています。

このことをボーンアゲインといいます。

ボーンアゲインとは、自分を捨てて、神様に従って新しく生きることです。

それは、靈的に生きるということとも言えます。

今、私はそういう自分になりたいと思っています。

以前の自分は、「100億売るぞ」と口に出して言い続け、それが実現することが信じることで自己実現することが大事だと考えていました。

しかし、毎日妻と聖書を読んで話合いをしている中で、それは、自分中心の生き方かも？と気づきはじめました。

「今まで自分のやってきたことは本当に神様が喜ぶことなのか？」という疑問がわいてきているのです。

何か大きなことをして、誰もが尊敬してくれるような結果を出さないとダメなだと思っていました。

聖書の有名な物語に「放蕩息子」という話があります。

相続財産を親からもらって好き放題に遊んで財産を使い果たし、豚の餌を食べたいと思うほど落ちぶれた息子が父親のもとに戻るのです。

父親の元に戻った息子は、

「お父さん、わたしは天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。もう息子と呼ばれる資格はありません。雇い人のひとりにしてください。」

と自分を捨てて、父に従って新しく生きようと決める物語です。

この息子がゼロになり、新しく生きる姿をみて、自分も自己中心的で生きるのではなく、自分を捨てて神さまに従える自分になりたいと強く感じたのです。

そして神中心に生きるために神様と毎日、話をして、いま、神様に「どうしたらいいんですか」ときいています。

2023年10月5日

町田おかしの家だより

最近の作業



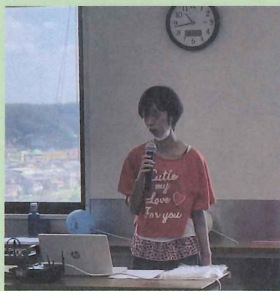
クリスマス等の季節商品や特注商品に取り組んでいます。
基板作業では頑張って作業をしています。

避難訓練（9月）



火災を想定した避難訓練を実施しました。

夏ゆず打ち上げ（8月）



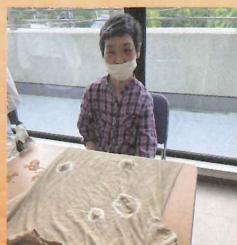
カラオケ大会と会食で盛り上がりました。後援会の皆様に準備でご協力いただき、保護者から差し入れも頂きました。ありがとうございました。

ヨガ・ダンス教室（9月）



8月の祝日出勤の代休日にヨガとダンスの教室を開催しました。体を動かしてリフレッシュしました。講師の伊沢様ありがとうございました。

レクリエーション(草木染・9月)



藍葉の生葉と胡桃を使ってTシャツの草木染めをしました。

誕生日会



5月



6月



8月

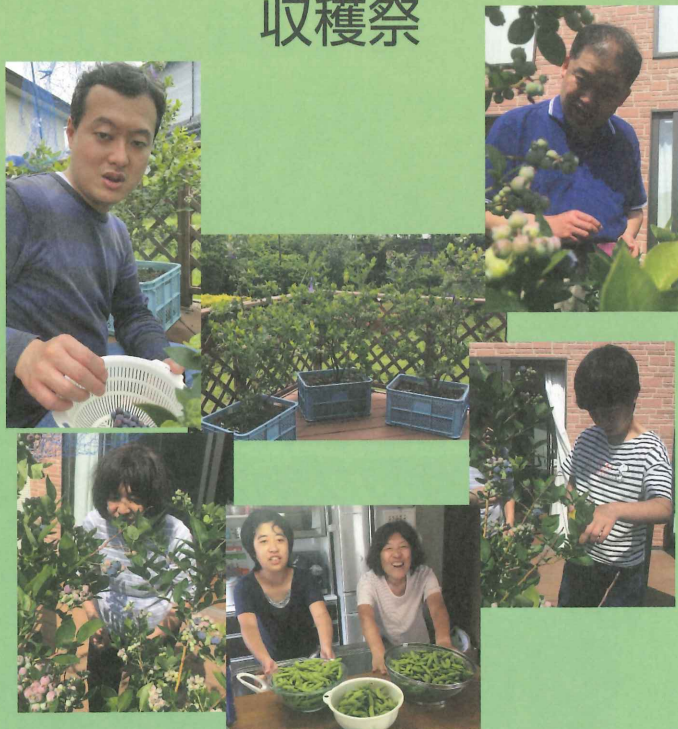


9月

色とりどりの花で誕生日にお祝いをしました。

ケアホーム愛の鈴

収穫祭



夏には枝豆やブルーベリーなどの収穫を行いました。ブルーベリーは施設長の実家「やさいのこがねい」さんからたくさんの実をつけた木をお借りしました。ありがとうございました。

誕生日会



5月にF.Sさん、8月にS.Hさん、9月にY.Rさん、10月にR.Gさんのお誕生日会を開催しました。皆様、おめでとうございます。理事長夫妻にもご参加いただきました。

歓迎会



5月22日より入居されたTさんの歓迎会を行いました。よろしくお願いたします。

送別会



10月2日で転居された、Iさんの送別会を9月末に行いました。永い間ありがとうございました。これからもお元気で！！

法人本部報告

「理事会 報告」

令和5年度 第1回（令和5年5月22日 午後開催）

議案 ・令和4年度 事業報告 ・令和4年度 決算
・次期の理事・監事の選出

その他・法人本部及び町田おかしの家並びにケアホーム愛の鈴（運営状況報告 他）

令和5年度 第2回（令和5年6月12日 同日評議員会後に書面決議）

議案 ・理事長選任

令和5年度 第3回（令和5年9月26日 午後開催）

議案 ・管理課長設置に伴う「法人組織規程」「就業規則」「給与規程 別表」
の一部改正

・短時間正規職員の決定と管理課長任命

・ケアホーム愛の鈴 施設長の任命 ・法人本部長の任命

その他：法人本部及び町田おかしの家並びにケアホーム愛の鈴（運営状況報告 他）

「評議員会 報告」

令和5年度 第1回（令和5年6月12日 午後開催）

議案 ・令和4年度 事業報告 ・令和4年度 決算
・次期の理事・監事の選任

その他・法人本部及び町田おかしの家並びにケアホーム愛の鈴（運営状況報告 他）

「ご寄付受入状況報告」

（敬称略 50音順）

（令和5年6月1日から9月30日現在）

ご寄付・ご献品は、法人及び事業所利用者のためにありがたく使用させていただきます。

<法人全体へのご寄付（法人運営資金として）>

・浅見源司郎	・伊藤美保子	・猪野塚睦子	・岩熊幸織
・植草三樹男	・宇佐美より子	・衛藤憲一	・加藤武仁
・久保田民子	・齋藤謹也	・齋藤美智子	・阪智香子
・須賀みど里	・田中和子	・祢津都子	・松岡浩子
・森高登志夫	・横溝肖実		

・宗教法人大和キリスト教会大和カルバリーチャペル 牧師 大川従道

<町田おかしの家へのご寄付（事業所運営資金として）>

・丹後美穂

【訂正】

前号は5月31日までの
寄附者となります。

<ケアホーム愛の鈴へのご寄付（事業所運営資金として）>

・猪野塚幸子

皆様の当法人及び事業所への温かな見守りのご支援、ご協力に感謝を申し上げます。

*当法人では、引き続き、皆様からのご寄付を募っております。

下記銀行口座へお振込みをいただけると幸いです。

どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

お振込先：みずほ銀行町田支店（普）1064633

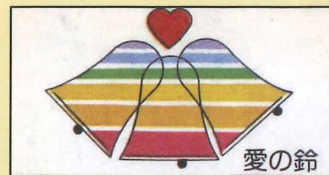
社会福祉法人愛の鈴 理事 植草三樹男

町田おかしの家

～ 販売商品 ～

国産もち米を使用した

人気のおかき！



各種1袋
120円

< 和シリーズ >



しょうゆ

アーモンド

しお

こつぶ

あまから

※下記箱詰め（15袋箱入り・18袋箱入り）と、おかき5種袋詰め承ります。

プチあんじゅ・こいそ豆からもお選び頂けます



15袋箱入り 2000円

18袋箱入り 2360円



5種袋詰め
700円

一口サイズの
あんドーナツ

プチあんじゅ



味わい豊かな豆菓子

こいそ豆



1袋各120円

日高産天然物



日高昆布 800円

こだわりの逸品

有明産



やきのり 400円



こちらのQRコードから、
町田おかしの家ホームページの
商品紹介にアクセスできます。

①



②



③



～香りと彩りの静岡県産お茶～

① 粉末緑茶 700円

② 煎茶 850円

③ 上煎茶 1000円

※①～③の中から2袋入り・3袋入りの
箱詰めも承ります。

アクセスマップ



就労継続支援B型 町田おかしの家

〒194-0035

東京都町田市忠生2-7-9

電話042-792-9773 FAX042-792-9767

E-mail okashinoie@ia2.itkeeper.ne.jp

小田急線・JR横浜線 町田駅から 神奈中バス 小山田桜台行
町田工業高校前 バス停下車 徒歩10分



共同生活援助 ケアホーム愛の鈴

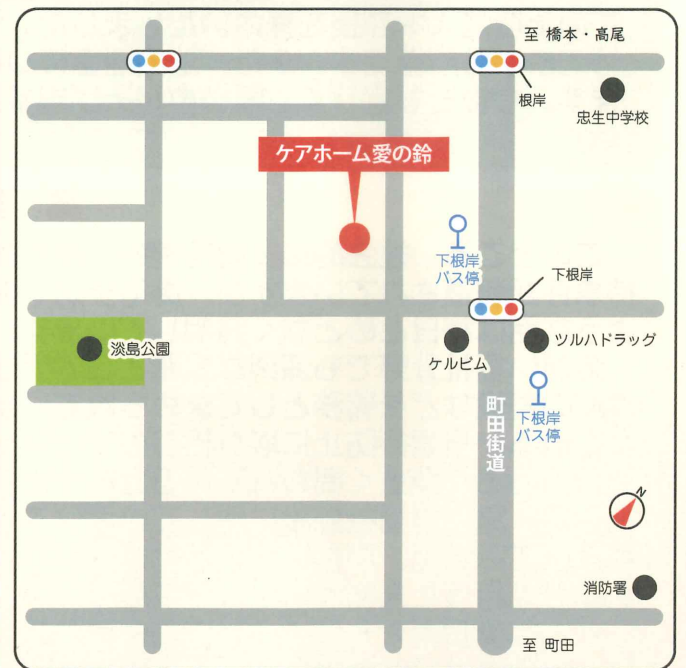
〒194-0038

東京都町田市根岸2-28-14

電話042-794-4120・4121 FAX042-794-4122

E-mail care.home@aino-suzu.jp

小田急線・JR横浜線 町田駅から 神奈中バス 野津田車庫前行
・小山田行・橋本駅北口行等 下根岸 バス停下車 徒歩5分



愛の鈴通信を読んだご感想等をお聞かせください。

※ご感想等ございましたら以下の送付先からお送りください。また、送付先の変更や中止がございましたらお知らせ下さい。



<送付先>

住所：〒194-0035 東京都町田市忠生2-7-9

FAX: 042-792-9767 (町田おかしの家)

042-794-4122 (ケアホーム愛の鈴)

URL:<http://aino-suzu.jp/publics/index/3/>

※左のQRコードからお問合せフォームにアクセスできます

ケアホーム愛の鈴では生活支援員を募集しています。
。詳細は法人ウェブサイトの職員募集ページをご覧ください。
いただくか、各事業所までお問合せください。
<http://aino-suzu.jp/publics/index/11/>



人事

【令和5年7月 採用】

ケアホーム愛の鈴 生活支援員 榊原 律美 (非常勤)

【令和5年10月 任命】

法人本部長・町田おかしの家 施設長 茂木 滋範 (常勤)

法人本部・管理課長 小金井 光雄 (常勤)

ケアホーム愛の鈴 施設長 河本 浩 (常勤)

本部長就任のあいさつ

このたび法人本部長を拝命いたしました。法人全体の展望と課題に向き合いながら職務に努めてまいり所存です。また、法人運営について引き続き皆様からのお力添えを賜りたく存じます。今後とも宜しくお願い申し上げます。

法人本部長 茂木 滋範

編集後記

このところ、社会的に「虐待問題」が大きくクローズアップされています。連日のように虐待事件が報道されていますが、虐待予防や権利擁護などが叫ばれているものの、信じられないような話は毎日とめどなく判明しています。

障がい福祉分野でも深刻な問題として受け止められ、行政からは研修会参加・開催や委員会体制の整備などを義務として求められています。しかし、福祉事業所としても制度的に求められているから虐待防止に取り組むのではなく、身近に起こりうることとして問題意識を持って取り組めるかが重く問われていると言えます。

さて、障がい福祉施設に関していえばですが、これらの虐待事件の「犯人」の名前でウェブ検索してみると、事件以前の活動がメディアで取り上げられ評価されている場合があります。実は志を持った人物が事件を起こしているということが珍しくないようです。

どんな支援者でも個人としての生活者ですから、ストレスやトラブルを抱え込むこともあれば、そのはけ口を身近な相手に向けるということは十分にあり得るわけです。

大切なことは、誰でも起こしうる虐待を防止するに職員一人ひとりが厳しく自分を律するより、むしろ面倒に思えてもこまめに自己点検をして、些細な違和感と日々向き合うという地道な取り組みを続けていくことではないでしょうか。

善悪で判断するとどうしても人を裁いてしまいがちです。利用者・職員・すべての人に対して課題点ばかりでなく、組織・施設全体のこととして考えることが必要でしょう。

着実に取り組みを検証して取り組みの改善し続ける知恵を巡らせたいと思います。 (原子)